

全国英語教育学会 (JASELE)
第47回北海道研究大会 自由研究発表
2022年8月6日 (土)

日本人高校生のスピーキング能力の発達 —CAF分析を用いて—

森本 俊 (玉川大学)

森下みゆき (ベネッセ教育総合研究所)

杉渕理恵 (株式会社ベネッセコーポレーション)

1. 研究の背景と目的

効果的なスピーキング指導を実践する上で、日本人英語学習者のスピーキング力がどのように発達するのかについての知見を得ることは必要不可欠である。

小泉・山内(2003)

公立中学校に通う中学生2年生71名のスピーキング力の発達を5カ月にわたり調査。テストではモノログ形式の自己紹介タスクの発話分析の結果、全体として語彙と流暢さの伸びが確認されたと同時に、文法能力及び語彙能力の違いによって異なる発達度合いが見られた。

1. 研究の背景と目的

Koizumi and Katagiri (2007)

SELHiに指定された高等学校に在籍する39名の生徒のスピーキング力が**13ヵ月**の期間を通してどのように発達するのかを、**絵描写タスク**における発話語数や正確さ、流暢さ、統語的・語彙的複雑さを表す計11の指標を通して分析。生徒自身が発話する時間 (time to speak by themselves) と100 tokenあたりのdysfluency markers数を除き、中～高程度の改善が見られた。No. of pronunciation-error-free clauses per clauseのみ男女差が見られた(女子のみ改善)。

1. 研究の背景と目的

Koizumi and Katagiri (2009)

- SELHiに指定された高等学校に在籍する31名の生徒の縦断的調査及び同校1年~3年生118名の横断的調査
- **絵描写テスト** (準備時間1分)の結果を語数, 発話時間, 正確さ, 流暢さ, 複雑さの指標を通して分析
- **流暢さの改善が先行し, 正確さの発達には時間がかかる**
- **正確さ, 流暢さ, 複雑さにはトレード・オフの関係がある**
- **ただし, 先行研究の結果は流暢さを高めることをねらいとしたタスクにおけるもののため, 一般化するためには他の種類のタスクについても要検証**

1. 研究の背景と目的

- ・以上を含むスピーキング力の発達に関する先行研究では、(1) 絵描写や自己紹介といった**タスク**が主な対象となっており、(2) **長期間に渡るスピーキング力の発達を捉えた研究**の数も十分とは言えない。
- ・そこで本研究では、日本人高校生のスピーキング力が**1年半という期間**を通してどのように発達するのかを、(1) **即興での発話を求められるタスク**と (2) **thinking timeを伴う意見陳述型タスク**における発話データを分析し、
先行研究を補完するデータを提示する。

1. 研究の背景と目的

リサーチクエスチョン

RQ1 日本人高校生のスピーキング力は、1年半の期間を通して語彙・正確さ・複雑さ・流暢さ等の観点からどのように発達するのか。

RQ2 上記RQ1の発達は、タスク条件によってどのように異なるのか。

2. 方法

2.1 参加者

- ・校外学習でオンラインスピーキング講座（※1）を受講した2021年度高校3年生6名（男：0名，女：6名）
- ・5名が公立の高等学校に，1名が私立の高等学校に在籍
- ・参加者のうち5名が中学2年の4月から，1名が高校1年の4月からオンラインスピーキング講座を受講
- ・外部のテスト機関によるCEFRのレベル判定は，最初のテストが行われた2021年2月時点でA2が4名，B1が2名

※1 <オンラインスピーキング講座>とは

- (株)ベネッセコーポレーション, 進研ゼミが提供する<Challenge English>講座 (2017年度4月に中学高校領域を開講)
- 中学1年生~高校3年生が主な対象。6つのレベルから学年や個人の英語力によって選択したレベルで学習。(本研究参加者は, 2021年度高2~高3生を対象としたAdvanced 2レベルを受講)
- 本講座では, 毎月2回, 「映像講義 (ライブ授業)」で事前に学習した後, 「オンラインスピーキング」として, オンラインで15分外国人の先生とマンツーマンでレッスンをを行う。



2. 方法

2.2 テスト

- ・半年ごとに計3回実施され(1期: 2021年2月, 2期: 2021年8月, 3期: 2022年2月), オンライン上で外国人講師と一対一で行われた。
- ・Part A~Cの計3つのパートから構成され, 本研究では与えられたテーマに対して即興で意見を述べる設問(例: Which country are you most interested in?)であるPart B(計3問)及び与えられたテーマに対して1分間のthinking timeが与えられた後に意見を述べる設問(例: Some people think that the ambulance service should be charged. What's your opinion on this?)であるPart C(計1問)の発話データを分析対象とした。

2. 方法

Part Bの問題(各回3問)

1. What do you like to do on New Year's Day?
2. If you had a time-machine, what would you like to do with it? Why?
3. Which do you prefer, traveling abroad or in Japan? Why?
4. If you had enough money, what would you want to get the most?
5. Which country in Asia would you like to visit most? Why?
6. When you want to know today's weather, which do you prefer, reading newspapers or watching TV news? Why?
7. What makes you the happiest?
8. Which country are you most interested in? Why?
9. Which would you prefer, being a group leader or a member of a group. Why?

2. 方法

T: Thank you so much. Next, question number 2. Which country are you most interested in?
Why?

S: I'm interested in um, France, France, because um, the country I want to go to in the future, I want to go to in the future in France, and I want to, um, go to Eiffel Tower, and eat Escargot.

2. 方法

Part Cの問題

- 1. Some people think that Japan should make English its second official language. What's your opinion on this? Give one or more reasons why.**
- 2. Some people think that elderly people should return their driver's licenses. What's your opinion on this? Give one or more reasons why.**
- 3. Some people think that the ambulance service should be charged. What's your opinion on this? Give one or more reasons why.**

2. 方法

T: Alright, time is up. Now please answer. Some people think that the ambulance service should be charged. What's your opinion on this? Give one or more reasons why?

S: Um, I think, I think the ambulance service shouldn't be, shouldn't be charged, because, uh, we should help each other when we in emergency. So, ... if we, if the ambulance service charge, service will, um, service is charged, we can't, people can't use it. Um, people hesi, people will hesitate to use it when it when they in emergencies. So I think the ambulance service should be charged, but I, but I think, uh. It is not good thing, um, it is not good that we use ambulance service when we were not in emergency.

2. 方法

2.3 分析

- ・録画した参加者の発話データを書き起こし、語彙、正確さ、流暢さ、複雑さを含む計16の指標を用いて分析を行った。AS-Unit分析を行う上で、Foster, Tonkyn, Wigglesworth (2000)が提唱したthree levels of applicationのうち、Level 2を採用した。
- ・全データの10%を2人の研究者が個別に分析し、結果の擦り合わせを実施。
- ・分析にはSPSS Statistics 27を用いた。参加者が少数であったため、フリードマンの検定を用いて分析を行った。

2. 方法

語彙	(1) pruned token 数, (2) unpruned token 数, (3) type 数, (4) 内容語 token 数
正確さ	(5) 誤りのある AS-Unit の割合, (6) 誤りのある語数の割合
複雑さ	(7) AS-Unit あたりの従属接続詞数, (8) AS-Unit あたりの節数, (9) AS-Unit あたりの token 数, (10) Lexical variety (type-token ratio)
流暢さ	(11) 繰り返した語数, (12) 自己訂正をした語数, (13) 1 分間で話した語数
その他	(14) AS-Unit 数, (15) 語彙密度, (16) AS-Unit あたりの等位接続詞数

- unpruned token数: 全発話データから間投詞・フィラーを除いた語数
- pruned token数: unpruned tokenから自己訂正及び繰り返しを除いた語数
- 語彙密度: 内容語token数 / pruned token数 × 100

分析例 (Part C) 「高齢者の運転免許返納の是非」

【Original script】

Yes. I agree with this opinion. Because the amount of traffic accidents is in, in sharply increase.. when they.. then driver is olderly people. Because uh.. if ah, they.. they might, a most people is um, is suffering for any sick so they can't driving. That's all.

【unpruned token】

Yes. I agree with this opinion. Because the amount of traffic accidents is in, in sharply increase when they then driver is olderly people. Because if, they they might, a most people is is suffering for any sick so they can not driving. That is all.

繰り返し

【pruned token (analysis)】

~~Yes.~~ I agree with this opinion. Because the amount of traffic accidents is ~~in,~~ in sharply increase when ~~they then~~ driver is olderly people. Because ~~if, they they might,~~ a most people ~~is~~ is suffering for any sick so they can not driving. That is all.

自己訂正

【pruned token (final)】

I agree with this opinion. Because the amount of traffic accidents is in sharply increase when driver is olderly people. Because a most people is suffering for any sick so they can not driving. That is all.

分析例 (Part C) 「高齢者の運転免許返納の是非」

【pruned token (final)】

I agree with this opinion. Because the amount of traffic accidents is in sharply increase when driver is olderly people. Because a most people is suffering for any sick so they can not driving. That is all.

【AS-Units】

- 1 I agree with this opinion.
- 2 **Because** the amount of traffic accidents is in sharply increase **when** driver is olderly people.
- 3 **Because** a most people is suffering for any sick
- 4 **so** they can not driving.
- 5 That is all.

3. 結果と考察

	その他	語彙1	語彙2	語彙3	語彙4	正確さ1	正確さ2	複雑さ1	複雑さ2	複雑さ3	複雑さ4	流暢さ1	流暢さ2	流暢さ3	語彙密度	その他
	No of AS-Units	unpruned token数	pruned token数	type数	内容語 token数	誤りのある AS-Unitの割合	誤りある語数の割合	No of 従位接続詞 per AS-Unit	No of clauses per AS-Unit	No of tokens per AS-Unit	Lexical variety (TTR)	繰り返した語数	自己訂正をした語数	1分間で話した語数	語彙密度	No of 等位接続詞 per AS-Unit
Part B	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	2期 > 3期*	<i>n.s</i>
Part C	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	1期 < 2期* 2期 > 3期*	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	1期 < 2期*	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>
全体	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	2期 < 3期*	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>

【正確さ】 1期から2期にかけてPart Cで誤りのある語数の割合が有意に上昇し, 2期から3期にかけて低下 ($\chi^2(2) = 6.33, p < .05$)。

【複雑さ】 2期から3期にかけて全体でAS-Unitあたりの節数が有意に上昇 ($\chi^2(2) = 7.00, p < .05$)。

【流暢さ】 1期から2期にかけてPart Cで自己訂正をした語数が有意に上昇 ($\chi^2(2) = 10.00, p < .05$)。

3. 結果と考察

	その他	語彙1	語彙2	語彙3	語彙4	正確さ1	正確さ2	複雑さ1	複雑さ2	複雑さ3	複雑さ4	流暢さ1	流暢さ2	流暢さ3	語彙密度	その他
	No of AS-Units	unpruned token数	pruned token数	type数	内容語 token数	誤りのある AS-Unitの割合	誤りある語数の割合	No of 従位 接続詞 per AS-Unit	No of clauses per AS-Unit	No of tokens per AS-Unit	Lexical variety (TTR)	繰り返した語数	自己訂正をした語数	1分間で話した語数	語彙密度	No of 等位 接続詞 per AS-Unit
Part B	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	2期 > 3期*	<i>n.s</i>
Part C	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	1期 < 2期* 2期 > 3期*	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	1期 < 2期*	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>
全体	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	2期 < 3期*	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>	<i>n.s</i>

1期から2期にかけて正確さ及び流暢さが低下し、2期から3期にかけて正確性と複雑性さ向上するという発達傾向が示唆された。

3. 結果と考察

【Part B】

語彙密度を除くいずれの指標においても1期から3期にかけて有意差が見られなかった。

解釈①

参加者が高校3年生であったことを鑑みると、Part Bのような設問の応答では英語力における天井効果が見られ、16の指標を通した量的な観点では差が生じなかった可能性

解釈②

質問の性質上、Part Cのようなまとまった分量の回答が求められず、参加者が簡潔に答えた+映像授業における模範解答の分量に影響された可能性

3. 結果と考察

【Part C】

- ・正確さ(誤りのある語の割合)が1期から2期にかけて有意に低下, 2期から3期にかけて有意に上昇
- ・流暢さ(自己訂正をした語数)が1期から2期にかけて有意に上昇

1期から2期にかけての変化

- ・thinking timeを踏まえてまとまった内容を産出することが求められたため, 正確さよりもアイデアを考え, 発話量を確保することにフォーカスが当たり, 正確さが低下した可能性
- ・自己訂正した語数の増加は流暢さにとってはマイナスではあるが, 参加者が自らの言語使用をモニターし, 独力で英文を組み立てようと努力をした現れであるとも捉えられる

3. 結果と考察

2期から3期にかけての変化

- ➡ 同種のタスクをこなしていくにつれて、難しい内容に対しても自分の考え・意見をまとめ、まとまった英文を話すことに慣れてきた
- ➡ 正確さにより多くの認知的資源を割くことができるようになった(より深い統語的処理ができるようになった)可能性

4. 結論

本研究では、日本人高校生6名のスピーキング力の発達を、正確さや複雑さ、流暢さなど計16の指標を通して分析し、先行研究を補完するデータを提示した。

Part BとPart Cそれぞれにおいて異なる結果が出たことから、Skehan and Foster (1999)が指摘したように、スピーキング力の発達を見取る上でタスクの構造 (task structure) や処理条件 (processing conditions) を考慮する必要があることが示唆された。

4. 結論

本研究の限界と今後の方向性

- ・参加者数
- ・映像授業の指導内容の影響
- ・本発表では、有意差が見られた指標に着目し考察を行ったが、有意差が見られなかった指標（例: No. of 従位接続詞 per AS-Unit, 繰り返し語数）に対する考察には至らなかった。
- ・質的な分析（例: 正確さが具体的にどのように改善したのか、使用されている語彙のCEFRレベル, 慣用表現[フォーミュラ]の使用）
- ・テーマによる影響（背景知識の有無, topic familiarity）

引用文献

小泉利恵・山内逸美 (2003). 「日本人中学生のスピーキング能力の発達: 自己紹介のタスクを用いて」『関東甲信越英語教育学会研究紀要』第2巻, 33–34.

https://doi.org/10.20806/katejo.17.0_33

Foster, P., Tonkyn, A., & Wigglesworth, G. (2000). Measuring spoken language: A unit for all reasons. *Applied Linguistics*, 21(3), 354–375.

<https://doi.org/10.1093/applin/21.3.354>

Koizumi, R., & Katagiri, K. (2007). Changes in speaking performance of Japanese high school students: The case of an English course at SELHi. *ARELE: Annual Review of English Language Education in Japan*, 18, 81-90.

https://doi.org/10.20581/arele.18.0_81

Koizumi, R., & Katagiri, K. (2009). Changes in speaking performance of Japanese high school students: Longitudinal and cross-sectional studies at SELHi. *ARELE: Annual Review of English Language Education in Japan*, 20, 51-60.

https://doi.org/10.20581/arele.20.0_51

引用文献

**Skehan, P., & Foster, P. (1999). The influence of task structure and processing conditions on narrative retellings. *Language Learning*, 49(1), 93-120.
<https://doi.org/10.1111/1467-9922.00071>**